

議案賛否一覧					○：議案に対して賛成 ×：議案に対して反対					
議案	議案番号	議案名	概要	審査した委員会	清風会	自由クラブ	日本共産党議員団	公明党議員団	無所属	議決結果
					9	7	3	2	1	
予算	議第29号	令和7年度三条市一般会計補正予算	令和7年度の過疎対策事業債について追加配分を受けることが可能とされたことを受け、有利な財源を確実に活用するため、令和8年度の過疎対策事業債活用予定事業の一部を前倒しして実施することに伴い、必要な予算措置を行うもの 補正額 1,500万円 補正後の額 615億9,025万1,000円	総務文教 常任委員会 経済建設 常任委員会	○	○	○	○	○	原案可決
	議第30号	令和8年度三条市一般会計補正予算	令和7年度の過疎対策事業債について追加配分を受けることが可能とされたことを受け、有利な財源を確実に活用するため、令和8年度の過疎対策事業債活用予定事業の一部を前倒しし令和7年度予算に改めて計上することに伴い、必要な予算措置を行うもの 補正額 △1,500万円 補正後の額 538億7,000万円	総務文教 常任委員会 経済建設 常任委員会	○	○	○	○	○	原案可決
	議第31号	令和7年度三条市一般会計補正予算	令和7年度の地域未来交付金について追加配分を受けることが可能とされたことを受け、有利な財源を確実に活用するため、令和8年度の地域未来交付金活用予定事業の一部を前倒しして実施することに伴い、必要な予算措置を行うもの 補正額 4,574万1,000円 補正後の額 616億3,599万2,000円		○	○	○	○	○	原案可決
	議第32号	令和8年度三条市一般会計補正予算	令和7年度の地域未来交付金について追加配分を受けることが可能とされたことを受け、有利な財源を確実に活用するため、令和8年度の地域未来交付金活用予定事業の一部を前倒しし令和7年度予算に改めて計上することに伴い、必要な予算措置を行うもの 補正額 △4,574万1,000円 補正後の額 538億2,425万9,000円		○	○	○	○	○	原案可決
報告	報第1号	専決処分報告について (令和7年度三条市一般会計補正予算)	国の経済対策により措置された交付金等を活用して行う、生活困窮世帯や子育て世帯への支援に要する経費について、必要な予算措置を行ったもの 補正額 2億8,389万6,000円 補正後の額 567億8,053万9,000円 専決処分日 令和8年1月14日	総務文教 常任委員会 市民福祉 常任委員会	○	○	○	○	○	承認
	報第2号	専決処分報告について (令和7年度三条市一般会計補正予算)	衆議院の解散に伴い行われる衆議院議員総選挙に係る準備および投票事務に要する経費について、必要な予算措置を行ったもの 補正額 4,512万3,000円 補正後の額 568億2,566万2,000円 専決処分日 令和8年1月23日	総務文教 常任委員会	○	○	○	○	○	承認
	報第3号	専決処分報告について (令和7年度三条市一般会計補正予算)	今冬の降雪に伴い不足が見込まれる除排雪経費について、必要な予算措置を行ったもの 補正額 6億5,554万4,000円 補正後の額 574億8,120万6,000円 専決処分日 令和7年2月13日	総務文教 常任委員会 経済建設 常任委員会	○	○	○	○	○	承認
規則	議員発案 第1号	三条市議会会議規則の一部改正について	会議録等の配布について、ペーパーレス化を可能とするため、必要な改正を行うもの 施行期日：公布の日		○	○	○	○	○	原案可決

会派所属議員 ※○：会派の代表者

清風会	○西川重則 岡田竜一 馬場博文 岡本康佑 竹山嘉一	山田富義 酒井健 白鳥賢 西村邦明
自由クラブ	○阿部銀次郎 武石米二 野崎久雄 内山信一	佐藤和雄 森山昭 藤家貴之
日本共産党議員団	○小林 誠 武藤元美	坂井良永
公明党議員団	○燕 幸男	笹川信子
無所属		長橋一弘



Check!
3月定例会では4会派が大綱質疑を行いました。

大綱質疑

施政方針

Q 下田地域で小学校の統合が進められている。今後の学校統合について伺う。

A 令和9年度をめどに改めて未来の学校検討委員会を立ち上げることを考えている。その際は、市内各地区の小学校の在り方、中学校区の在り方も検討が必要。

Q 三条市立大学、統合される県立工業高校と三条商業高校について所見を伺う。

A 市立大学と新たに設置される県立産業高校の特色は合致しており、市としても十分協力する。

Q 物価高騰対策として水道料金の基本料金のみ減免が行われる。多数世帯ほど1人当たりの支援額が少なく、不公平ではないか。見解を伺う。

A 事務経費が極めて安価であり、市民に最大還元できる。他の施策も含め、優先順位を鑑みて決定した。

Q ふるさと三条応援寄附金について、財政上依拠するリスクと令和8年度の見込み額を伺う。

A 制度改正等で経常的な事業の維持、継続が困難になるなど、大きな影響を受ける恐れがあり、行財政改革に取り組む。令和8年度は35億円と想定。

Q 人づくりに力点を置いたことについて、市民の安全・安心を守るための人材、人づくりを進めることに言及した理由は何か。

A 三条市をさらに選びたいくなるまちにするためには、市民の安全・安心な暮らしを守ることが重要。水害や震災をはじめとした万が一の災害への備えはもちろん、大雪や鳥獣による被害への対策など、いざというときに地域を守るために欠かせない人を大切にしなければならぬ。こうした人づくりに取り組むための思いから言及した。

Q 下田地域におけるオンライン診療の検証について、費用負担はどうするのか。

A 事業費約1438万円のうち、医療コンサルタント業者への委託料が約1183万円、オンライン診療のモデル事業を行うために必要な医療器具等の購入費用が約255万円で、財源は全額、国の交付金の活用を予定している。

Q 国道289号八十里越について、北関東圏における三条市の知名度は発展途上とあるが、どのような情報で判断したのか。

A 昨年、新潟県からの働き掛けを受け、近隣市町村と広域的に連携し、8月に埼玉県越谷市の商業施設、9月に栃木県茂木町の道の駅において、八十里越開通に向けたプロモーション、自治体PRを実施した。現地でのアンケートやパンフレットの配布、来客との対話を通じ、寺泊や長岡といった近隣地域の知名度の高さが浮き彫りになった一方、当市の認知度はいまだ途上にあると認識した。開通後は、単なる通過点となることを防ぎ、誘客につなげていくために、戦略的なプロモーション活動の強化が肝要である。

Q 八十里越を象徴する5号橋梁でのバンジージャンプについて、実施の時期や期間はどれくらいなのか。

A 工事区間の利用を伴うため、2日間に限定。時期は、春から夏にかけての予定。

Q 猿被害対策で、GPS首輪による群れの位置を把握するシステムを導入するところがあるが、機器の台数や活用はどのようなものか。

A GPS首輪は、インターネット上にその位置情報を公開することによ

り、地域による追い払いなどに活用できる。令和8年度は、4台程度の導入を考えている。

議第1号
令和8年度
三条市一般会計予算

Q 財政調整基金残高は、令和8年度で約13億円減少し、年度末には約111億円となる見込みだ。過去には残高20億円以上を確保してきたが、近年は100億円前後で推移している。高額で推移している要因は何か。

A ふるさと三条応援寄附金の増加に伴い、基金残高が増加した。長期化する物価高騰などを見据えた慎重な財政運営が必要だと捉え、経常的な事業への財源投入を慎重に行ったことが基金残高の減少を抑えることになった。加えて、近年の国の交付税の追加交付や想定を上回る譲与税、交付金等の増加も影響している。

Q 2款総務費の公共交通体系の整備で、地域公共交通協議会負担金が令和7年度より約400万円減額されている。生活交通確保対策運行費補助金も約500万円の減額だ。公共交通に力を入れてほしいとの声がある中、減額となった要因は何か。

A 地域公共交通協議会負担金は、デマンド交通ひめさゆりの運行経費